

<市町村名> 新座市  
 <所在地> 新座市野火止1-1-1  
 <電話> 048-477-1111  
 <本事例の特徴>

本市では英語による体験的な活動やネイティブスピーカーとの触れ合いを通じて言語や文化に対する興味関心を高め、英語によるコミュニケーション能力の向上を目的に据えて、市内全小学校において教育課程特例校の指定を受け、「英会話の時間」の授業を進めている。

<学校種> 市内全小学校

<具体的な取組や成果>

### 1 『英会話の時間』の取扱い

新座市は平成15年5月に構造改革特別区域の「国際化教育特区」の認定を受け、平成16度から市立全小・中学校で9年間の系統的カリキュラムによる年間35時間（週1時間）の計画に基づく『英会話の時間』を開始した。特区終了に続き、平成21年度からは全小・中学校が文部科学省から教育課程特例校の指定を受け、継続実施している。また平成23年度からは小学校学習指導要領改訂による「外国語活動」の新設に伴い、その趣旨や内容を盛り込んだ『英会話の時間』を推進している。

下表は「外国語活動」及び『英会話の時間』の主な内容項目をまとめたもので、共通項目と考えられる箇所については同じ線種の下線で示した。

#### 外国語活動の内容・項目

【2点5項目】

##### 1. 主としてコミュニケーションに関する事項

- (1) 外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること。
- (2) 積極的に外国語を聞いたり話したりすること。

##### 2. 主として言語と文化に関する事項

- (1) 外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気づくこと。
- (2) 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気づくこと。
- (3) 異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深めること

「小学校学習指導要領解説 外国語活動編」より抜粋

#### 『英会話の時間』の内容・項目

【3点9項目】

##### 1. 会話の基礎

- (1) 簡単な英語を聞いて理解すること。
- (2) 歌や絵本などの簡単な英語を聞いて真似をすること。
- (3) 英語で自己紹介や自分の考えを発表すること。

##### 2. 国際的なマナーの基礎

- (1) ジェスチャーや表情豊かに人とコミュニケーションすること。
- (2) 英語だけで行われる授業に積極的に参加すること。
- (3) 友達と協力して活動すること。

##### 3. コミュニケーション能力の基礎

- (1) 映像教材、CDを用いた基本的な会話表現のインプットを行うこと。
- (2) 絵本や物語を自信をもって正しい発音で音読すること。
- (3) 発表（話す、読む）できる単語や文を書き写すこと。

「新座市『英会話の時間』学習指導計画」より抜粋

#### 【線種と項目の要点】

- ※ \_\_\_\_\_ : 体験・理解  
 \_\_\_\_\_ : コミュニケーション能力の素地  
 \_\_\_\_\_ : マナー・態度

外国語活動が5、6年生の2年間の計画であるのに対し、本市ではより長期的な展望に立った指導計画の方針を定めている。小学校高学年においては【慣れる・親しむ】だけでなく実際に【使う】ことに重点を置いた指導を推進している。そこで各小学校では6年間を通して英語の基礎を築き、技能を身に付けさせる点に配慮した授業づくりを進めている。

## 2 指導方法

- (1) 担任教師と英会話講師とによるティーム・ティーチングを原則として授業を行う。英会話講師については市内全小学校に外国人及び英語能力の高い日本人を配置している。
- (2) 系統的な指導を実現するために、『「英会話の時間」学習指導計画』に基づき授業を進めている。
- (3) 教材については、基本内容の指導に資する視聴覚教材や絵本等を配備している。また高学年段階においては”Hi, friends!”による指導を位置付け、活用を進めている。

## 3 成果と課題 (○ ⇒ 成果、● ⇒ 課題)

- (1) 担任へのアンケートの分析結果から
  - 自身の英語の質や指導力の向上を望む声が多く寄せられている。
  - 英会話講師と連携・協力しながら授業を進めている。
  - 英語だけを使用して授業を進めることに困難を覚えるとの意見がある。
- (2) 児童へのアンケートの分析結果から
  - どの学年においても9割近くの児童が「英語の勉強は大切である」と考えており、「英語を使えるようになりたい」という高い意欲をもっている。
  - 歌やダンス、ゲーム等の活動に対して意欲的に取り組む姿がうかがえる。
  - 学年があがるにつれて、授業以外に英語に触れる機会が少なくなる傾向がある。
  - 「音読練習」「発音練習」といった基礎練習への関心が低い傾向にある。
- (3) インタビューテストの結果から
  - 既習の言語材料を用いた英文復唱を正確に行うことができる。普段から日英両語の違いに着目した発音指導が継続的に実施されており、その効果の表われと考える。
  - 英語による質問に対しては総じて「正確な内容を答えている」との評価を与えられており、意欲的に回答する児童の様子がうかがえる。
  - 基礎的な受け答えや態度は良好であったが、答える際に文ではなく単語や句による答えが目立つ。
  - 質問文そのものを一度では聞き取れない場合に、上手に聞き返せない児童が目立った。相手からの質問が理解できないとき、どのように切り抜けるかといった方略を身に付けさせる必要がある。
- (4) リスニングテストの結果から
  - 全体の平均正答率が94.4%であり、「聴く力」が順調に育成されている。
  - ある程度まとまりのある英文を聴く場合、「メモを取る」などのリスニング方略を適切に用いて回答する等、工夫に努める児童の姿が多く見受けられた。
  - 英単語を正しく聴き取る問題の回答を詳細に分析すると、seventy と seventeen とを混同している傾向があり、強勢位置の違いについて十分理解できていない。「音節」や「拍」といったプロソディ特徴や音と音とのつながり等にも意識がむくような音声指導の充実を図る必要がある。
  - ショートスピーチや場面会話を聴いて、内容を理解する力を向上するためには、ふだんの聴き取り練習において「何を」「どう」聴くかというポイントを事前に与え、真新しい内容を聴いたときにも、柔軟に対応できる力を付ける必要がある。